

下野市立石橋北小学校

1 学校課題

(1) 研究主題

主体的に学び、高め合う児童の育成
 ～「わかる」「できる」が実感できる授業をめざして～

(2) 主題設定について

次期学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進し、児童に生きる力を育むことが求められている。本校の児童は、各種学習状況調査の結果や教員の反省から、自己肯定感がやや低く、自信を持って学習に取り組むことに課題があることが分かった。そこで、児童が成就感や達成感を得ることで、学習意欲が高まり、主体的に学びに向かうことができるのではないかと考え、昨年度に続き算数科を中心に、授業改善や指導法の研究に取り組むことにした。そして、本校の特色であるICT機器の活用やこれまでの学校課題研究の成果を生かし、「わかる」楽しさ、「できる」喜びを実感できるよう授業改善を図っていくことにした。



2 研究計画

(1) 全校体制での研究実践

- 低・中・高のブロックに分けた研究推進
- 授業研究会や学力向上推進リーダーによる授業改善研修

(2) 校内研究会

- S&Uコラボ授業研究会に向けた授業検討会や授業実践
- 一人一授業の実践と公開、授業研究会の実践

(3) ICT機器等の効果的活用（これまでの研究の成果の活用）

- 学習効果を高めるためのICT機器の効果的な活用

課題追究によってめざす児童の姿

○課題を自分のものとしてとらえ、解決に向けて取り組み、深く学ぶことを楽しむ子ども
 ○互いのよさを認め合い、高め合う子ども
 ○授業で「わかった」「できた」と実感できる子ども



3 研究の内容

(1) 研究の方針、内容および具体策

「わかる楽しさ」「できる喜び」を実感できる授業の工夫

方針	内容	具体策
(1) 学習意欲を高め、主体的に学びに向かうことができる授業の工夫	①自ら目的意識や課題意識(疑問・問い)をもつことができる導入の工夫	ア 具体的な活動(自作教材、具体物の活用など) イ ICT機器を活用した導入の工夫(PC、タブレット) ウ 児童の情意に働きかける課題の提示の工夫(意外性、疑問、好奇心など)と発問の工夫
	②「振り返り」活動の確実な実施と内容の充実	ア 「めあて」「まとめ」「振り返り」の授業展開への位置付けと提示方法の工夫と確実な実践
(2) 学習集団での、互いの有効な関わり合いを生み出す工夫	①安心して学び合える集団づくり	ア Q-Uの実施・結果分析による学習集団づくり イ 互いのよさを生かし、他を認め合う学級経営
	②個のよさを生かす学習形態や学習活動	ア 学習形態の工夫による学び合いと時間の確保 イ タブレットによる個人の考えの表現
(3) 達成感や喜びのある授業の工夫	①達成感や成就感を得られる教材やICT機器の活用	ア 教材の収集、開発、作成、管理、活用など イ ICT機器活用などによる個人の考えの表現の工夫 ウ 個別解決のための時間の確保
	②学年相応の家庭学習の充実	ア 家庭学習の実態調査と分析 イ 家庭学習のガイドラインやモデルの提示(「家庭学習のすすめ」)および家庭学習に啓発と協力依頼 ウ 授業との関連を図った家庭学習の工夫および自立的・計画的な学習方法の支援

(2) 主な実践授業（算数）

月/日	学年	形態	単元名	課題追究のための手立て等
7/ 10	3年	S&U	「あまりのあるわり算」	・課題解決での既習事項の活用、意見の交流による高め合いの工夫
9/ 6	5年	校内	「分数の大きさとたし算、ひき算」（事前授業）	・自力解決場面での既習事項の活用、考え方の多様性に気付く交流(対話)
9/ 13	5年	S&U	「分数の大きさとたし算、ひき算」	
11/ 28	1年	校内	「くらべかた」 ※2年「長さ」との系統	・間接比較に既習事項を生かし、見通しをもたせた自力解決
12/ 5	4年	校内	「垂直、平行と四角形」	・既習事項の活用と交流（対話）
12/ 6	2年	校内	「長さ（2）」（事前授業）	・具体物を用いた自力解決 ・意見交流の場の工夫
12/ 12	2年	S&U	「長さ（2）」	
12/ 17	4年	校内	「変わり方」	・具体的な場面での自力解決 ・お互いの考えの交流（対話）
12/ 20	4年	校内	「垂直、平行と四角形」	・課題提示の工夫（興味・関心） ※プログラミング学習
1/ 30	個支 1・5年	校内	「大きな数」（1年） 「四角形や三角形の面積」（5年）	・ワークシートやコンピュータ活用による課題解決
2/ 6	6年	校内	「算数を使って考えよう」	・既習事項の活用と交流（対話）

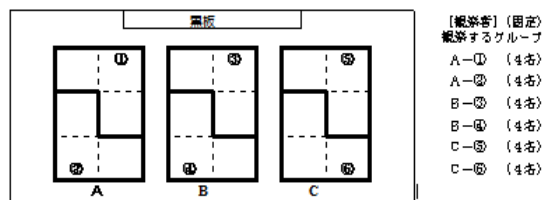
◎S & U指導者：宇都宮大学教育学部教育学研究科 教授 日野 圭子先生

≪算数以外の主な授業（学校課題との関連：1人1授業）≫

- 理科 5年「もののとけ方」
- 理科 6年「大地のつくりと変化」
- 自立活動 特支「道具を使って運動しよう」
- 道徳 2年「公園の鬼ごっこ」（人権、障害者）
- 道徳 6年「本当の美しさとは」（感動・畏敬の念）

(3) 「わかる」「できる」につながる授業改善

- ・学力向上推進リーダーの指導のもと、教師の授業力向上を目指し、授業計画シートや座席表を活用して授業実践を行った。
- ・学力向上推進リーダーからの助言を日常の授業に生かした。
- ・研究授業において、児童3～4人の観察者を固定し、教師の発問や他との関わりによる児童の変容を詳しく捉える工夫をした。
- ・既習事項を意識させる発問の工夫や補充学習を行ってきた。



4 成果と課題

(1) 成果

- ・問題解決の場面では、関連する既習事項を意識させることで、解決の見通しを持って、自力解決ができた。このことは、自らの考えに自信を持つことや、自らの疑問が明確になるなど、交流や対話の活性化につながり、自分の考えに深まりを持たせることができた。
- ・式と具体物（図）を繋ぐ説明を意識して取り入れることで、分かりやすい説明となり、考えに深まりが見られた。
- ・授業を参観する際、観察児童を固定化することで、授業への取り組み方や他の児童とのかかわりなどを見取ることができた。これにより、児童の変容のポイントが見え、効果的な発問について考えることができ、自身の授業実践に生かすことができた。
- ・授業計画シートは、その時間のねらいを明確にし、ねらい達成のための道筋を考えやすくし、「できる・わかる」授業改善に繋がった。

(2) 課題

- ・新たな学習内容に既習事項を生かすことができるよう、基礎的内容を確実に定着させる工夫をしていきたい。
- ・家庭学習の効果的な取組について、さらに共有化を図り、家庭学習の推進をしていく。
- ・授業改善に向けた取組には、意識の上でまだまだ個人差がある。校内体制として、さらに取組の徹底や情報の共有を図っていきたい。